

競争によって学校間格差を生む学校選択制

学校は、子どもたちが生きていくための基礎学力だけでなく、人とのふれあいを通して人格形成をする場でもあります。学校の役割はとても大きく期待されています。

たくさん抱える教育を変えようと様々な取り組みがされています。

八王子市では、学校選択制が2004年度から始まります。新1年生は、小学校では隣接する学校を、中学校では全地域からどの中学校も選択できるようになります。市教委は選択制の目的を、学校が競い合うことでよりよい結果が期待できる。「いかに学ぶか」という保護者や子ども達のことを尊重することだと主張しています。確かに、保護者や子どもたちが、学校情報を得て、学校を選択することは自己決定の保障です。

しかし、学校選択制は反面、義務教育に競争原理を導入することです。

まちづくりは市民参加で、市は責任ある判断を

JR八王子駅南口再開発

JR八王子駅南口再開発は、商業業務ビルから高層の集合住宅を中心とし、市民会館などを併設する計画変更案が出されています。3月には大林組が事業協力者に決定しました。八王子市は、再開発準備組合に指導助言する立場として関わり、市の基本計画にも位置づけ、再開発準備への補助金もこれまでに約1億円を支出しています。しかし、市民には計画の具体像が見えにくい状況が続いています。

談合事件を契機に入札契約制度の改善を

2月に逮捕者を出し、市役所の家宅捜索まで受けた水道事業者の談合事件に対して、市は逮捕された3社に1年間、談合していた19社に6か月間の指名停止をしました。また、損害賠償を求めて告訴する方針です。再発防止のための入札契約の見直し案は、水道部の契約で1年間試行することになりました。見直しの対応策は、業者の対象範囲を広げ競争性を高める。水道事業談合監視委員会を設置して取引の監視をする。談合監視委員会が不適切と判断した場合は契約解除する。というものです。

私は予算特別委員会で、談合していた19の業者名

特に中学校では、学力格差・学校間格差を助長する心配があります。荒れている学校や小規模などの理由で子どもたちが集まらなくなる減少校の発生も危惧されます。小規模となった学校は統廃合の対象ともなると市教委は明言しています。このように、学校選択制は問題を含んでおり、負の側面を見ないわけにはいきません。

「特色ある学校」が学校間や子どもたちの競争を煽ることのないよう、教育本来の基礎基本を学ぶ場であるよう強く教育委員会に求めました。競争によって勝ち負けの二分化を子どもたちに強いることは教育にふさわしくありません。

すべての子どもたちが個性を發揮し、ひとり一人にあった教育のためには30人学級や十分な教育予算など、教育環境の整備と教師や保護者の自由で積極的な教育への参加を保障することではないでしょうか。

低迷する経済情勢の中で、大規模な再開発は成功への不安も否めません。

再開発の主体は再開発組合を構成する地権者です。しかし、総事業費の2%~3%の補助金を出し、加えて市民会館の南口への移転建替をして再開発を後押しする市は、責任ある関わりと事業の成否の判断をしよう求めました。

再開発計画とあわせて、南口駅前広場や南北自由通路と接続するペDESTリアンデッキの整備も計画されています。再開発の具体的な内容や広場の整備計画案を事前に公表し、再開発の影響を受ける周辺住民や、広場の利用者である市民の意見を十分反映できるようパブリックコメント制度の実施を提案しました。

の公表をし、業者に決して談合は許さないという強い態度で臨むこと。水道事業だけでなく、全ての入札契約の改善策を定めること。又、価格以外の要素を重要視し、東京都などが実施している総合評価方式(環境や福祉などの視点を考慮する政策入札)の導入を主張しました。業者名の公表は業者にとって不利益になり規定がないこと、全体での防止策や政策入札はとても困難であるとして、市の答弁は消極的で談合防止に対する毅然とした姿勢が見えませんでした。

市長のイニシアティブによって、談合防止のための入札契約制度の改善を強く今後も求めていきます。

井上むつ子さんに期待します

民主主義に支えられた主張

石黒 富江 (南陽台)

ひとりの議員としての井上むつ子さんの活動には、たいへんユニークなところがあります。井上さんは、正しいと思うことは、どこまでもやり遂げるという強靱な精神の持ち主ですが、決してそれは独りよがりのもではありません。その主張は、あくまでも民主主義に支えられています。それはサイホンの装置のように、つねに弱者の意見を吸い上げて、練りあげられているのです。井上さん独自の活動スタイルは、こうした考えから生まれたのだと思います。だから、井上さんのまわりには、いつも井上さんに信頼を寄せる人たちが、ごく自然にあつまってきて、一緒に仕事をする事ができるのです。そんなところにも、井上むつ子さんの親しみ深い人柄がにじみ出ているといえましょう。

井上むつ子さんは、これまでも市民の役に立つ仕事を着実に積みかさねてこられました。平和の問題や有罪法制の問題、福祉や教育の問題、あるいはプライバシー侵害の恐れのある住基ネットの問題や環境保護の問題などなど、広い範囲の問題にとりくんでこられました。これらの問題は、いまたいへん重要な段階をむかえています。それは決して地方自治の問題と無関係ではありません。こんなときにこそ井上むつ子さんには、おおいに頑張って頂きたいと思います。

つけ加えて言わせてもらおうと、とりわけ私のように、自然のみどりを大切にしたいと思っている者にとっては、井上むつ子さんは、もっとも信頼のおけるかけがえのない議員さんなのです。八王子市議会に井上むつ子さんをぜひともおくりだしたいと切望しています。

市民の声を大切に井上さん

木村 順子 (松が谷)

介護という言葉には、全くといっていいほど縁がなかった私でしたが、6、7年前に「介護の社会化を進める1万人市民委員会」(都知事選に立候補した樋口恵子さんと福祉の堀田力さんが代表)という介護保険が導入されるに当たり、市民の声が反映される制度をつくることを目的とした市民団体の事務局を担うことになって、すっかり介護問題にはまってしまうました。

井上むつ子さんもそのメンバーであり、八王子の介護保険制度をより市民の要求にあったものにしたということから共に活動をしてきました。井上さんは市民の立場に立って意見を述べ、発想も豊で、おおいに啓発されました。また市民の要求や提案を行政に伝える橋渡しの役を快く引き受け、私たちの活動も円滑に進めることができました。市議としての井上さんをおおいに活用させていただきました。特養ホームの訪問調査活動にも参加され、自分の目で実態を見つめ、考察し市政に反映する努力をしてくれました。まだまだ介護保険制度に関する要望はたくさんあり、5年目の見直しに向けても、生活者の視点で活躍してくれる井上さんは八王子の議会に不可欠の存在です。

これからの井上さんに期待することは、市政に市民の声をさらに反映できる仕組みを作ってもらいたいこと。八王子市は他市と比べ市民参加に消極的です。介護保険法にはしっかりと市民参加が保障されており、形だけの参加ではなく、市民の声を尊重するリーダーになってほしいこと、また過疎化する地域の活性化への取り組みにも力を發揮していただきたいなど。もっともっと暮らしよい八王子市にしていくためにも、市民を大切に井上さんに、大いに活躍していただきたいものです。



イラク戦争反対集会にて



コミュニティバス「はちバス」の前で



都知事選挙の応援

井上むつ子後援会へのご支援とカンパのご協力をおねがいします。
郵便振替口座 00140-7-98039 口座名 井上むつ子後援会